

## JA 全農 ET センターニュース平成 15 年 10 月号

今月は当センターの地元、北海道十勝平野にある JA 上士幌管内の 2 つの代表的な ET ユーザー牧場を紹介させていただきます。

### 1. JA 上士幌管内：「遠山昇牧場の ET 和牛素牛が十勝管内共進会にて最高位賞受賞」

今年 7 月に開催された第 35 回十勝総合畜産共進会肉牛未経産牛の部で見事、最高位賞を受賞した「うめさん」は遠山牧場の出品した受精卵移植産仔です。母「うめみよ」(ET センター供卵牛)の 3 代祖は福桜-安隆-糸波で、それに平茂勝を交配した受精卵から生産されました。遠山牧場には ET 和牛が多数おり、現在までに約 40 頭を市場出荷、繁殖雌牛として 30 頭が飼養されています。畑作と肉牛との複合経営で肉牛部門を拡大中です。JA 上士幌は ET 和牛素牛生産事業を平成 11 年度から継続実施しており、借り腹牛を酪農家が提供、JA 全農 ET センターの和牛受精卵をその借り腹牛に移植して、酪農家で分娩したら初乳のみを飲ませ、和牛繁殖農家が生後 1 日で引き取り、人工哺育で育成し、優良雌牛は地元で保留、雄はホクレン帯広市場に出荷する事業を実施しています。平成 14 年度は約 300 頭の受卵牛に移植を行っています。遠山昇さんもこの事業に乗って、経営を行っています。遠山さんの今後の抱負は「ET 事業は収益性が高いので、引取り頭数をさらに増加させるためにも、自らがホルスタイン種育成牛を飼養して拡大したい」とのことです。

### 2. JA 上士幌管内：「小椋牧場の好体型タイプドナー牛のシンジケート運営による胚移植の活用」

友人達(十勝清水町：串田牧場，士幌町：山岸牧場，芽室町：村瀬牧場)とシンジケートを作り、著名な系統のドナーを輸入し、奥さん達や後継者候補(息子達)と一緒に、本牛ならびにその ET 産子を数多く共進会に出品しています。酪農経営に負の影響のでない範疇で、メンバーの皆が楽しむことをモットーにして、胚移植を活用している珍しい形態です。母は世界的に著名なクルル ブローカー エレガンス(EX-96)に父スカイチーフの産子であるバドジョン JK スカイック エリザベス ET 号(現在 3 産目で EX-92)を未経産 18 ヶ月齢で輸入し、2000 年の北海道ホルスタイン・ナショナルショウ、シニア 2 歳級で 1 等賞 1 席、インターミディエートチャンピオンに輝きました。その娘達も多くのショーで活躍しています。今年の全道共進会でも未経産 1 部で 1 等賞をエリザベスの ET 産仔が獲得しています。母と同様にエリザベスは採卵性に優れ、今まで 3 回の採卵で 38 個の正常胚が得られ、ET 産子も順調に増えています。一部の受精卵、ET 産子は販売され、出資した資金を回収して、また次のドナー導入資金としています。小椋さんの ET 技術に対する要望は「雌性判別済み凍結技術の早期の確立」と将来の夢は「好体型を求める海外の生産者に受精卵を輸出したい」とのことです。